

夏かぜについて

お子さんが、元気に遊んでいたと思ったら急に高熱を出す、高い熱が出ているにもかかわらず、食欲も変わらず、元気に走り回っている、そんな経験はありませんか？ 夏の風邪は、突然始まり、親をびっくりさせてくれます。それでは、おもな夏かぜを紹介します。

1) ヘルパンギーナ

急激に 38℃をこえる発熱が現れ、2~3 日続きます。熱が 40℃をこえることも珍しくありません。特徴的な症状は強いのどの痛みです。のどの奥に小さな水ぶくれができた後すぐに破れるため、のどの奥にアフタが散在します。痛みは2~3 日で消失します。熱が下がって食事が取れるようになったら、保育園・幼稚園・学校は、登園登校可能です。原因はエンテロウイルスです。

2) プール熱（咽頭結膜熱）

プール熱も、急に高熱が出現します。のどがあかくなる、首のリンパ節がはれる、眼が充血するという3つの症状が特徴ですが、すべてがそろわないこともあります。発熱の期間はヘルパンギーナよりやや長く3~5 日間くらいです。名前がプール熱なのでプールに入っとうつされると思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、プールに入る機会が多い夏に流行することから名付けられたものです。保育園・幼稚園・学校には、熱が下がっても、眼の症状がしっかり落ち着くまでは行けません。原因はアデノウイルスといえます。

3) 手足口病

手足口病は、その名前の通り手のひら、足のうら、口の中に小さな水ぶくれができます。小さなお子さんの場合は、膝や肘、肛門の周りにできることもあります。熱はでないことが多いのですが、時に 38℃くらいの熱が数日続くことがあります。口の中はヘルパンギーナと違って、のどの奥ではなく舌先に多くみられます。保育園・幼稚園・学校は、お休みする必要はありません。原因はエンテロウイルスです。

これらの病気はいずれもウイルスによるものですので、抗生物質は効きませんし、特効薬はありません。熱が高くなるわりに元気がよく、食事もできるお子さんが多く、ある程度の食事や水分をとっていると数日間でおおってしまいます。しかし、のどが痛くて、飲んだり食べたりができないうえに高熱が続くと、小さなお子さんでは脱水を起こす場合もあります。おしっこの間隔が半日以上あく、唇が乾燥して、つばが糸をひく、泣いても涙がでない、ぐったりして動けないという時には脱水を起こしている可能性がありますので、早めに医療機関を受診しましょう。